

第2【事業の状況】

1【営業実績】

当第2四半期連結会計期間における営業実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	金額（百万円）
移動通信	680,907
固定通信	215,871
その他	17,019
セグメント間の内部売上高	△36,985
合計	876,813

- (注) 1 金額は外部顧客に対する売上高とセグメント間の内部売上高の合計であります。
2 所在地別セグメントの営業実績は、全セグメントの売上高の合計及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める「本国」の割合がいずれも90%を超えているため、記載を省略しております。
3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、新たに締結した経営上の重要な契約等はありません。なお、当第2四半期連結会計期間後に次の経営上の重要な契約の決議を行っております。

当社は、平成20年10月22日開催の取締役会において、株式会社セントラル・タワー・エステートから新宿ビル・大手町ビル・名古屋ビル・大阪ビルの土地建物等の信託受益権を取得することを決議致しました。

詳細は、『第5 経理の状況 1. 四半期連結財務諸表 注記事項（重要な後発事象）』に記載のとおりであります。

3【財政状態及び経営成績の分析】

(1) 業績の状況

経済概況

米国のサブプライム問題に端を発した世界の金融市場の混乱は依然として歯止めがかからず、雇用や消費など実体経済へとその影響が波及しつつあります。

わが国においても、輸出の減少や資源価格の高止まりによるコストの上昇などにより、企業収益の悪化が懸念され、また、設備投資は減少傾向を見せ、消費マインドも減退気味となるなど、国内景気が後退局面に入ったことが明らかとなってきております。

業界動向

移動通信市場においては、各社において通信料と端末価格を分離させた料金プランが導入され、端末価格が値上げされたことにより、端末販売台数が大幅に減少する一方、低廉な料金サービスの提供、多種・多様な携帯電話端末、音楽・映像等のコンテンツサービスの提供等によりお客様獲得に向けた競争が一段と激しさを増しております。また、固定通信市場におけるブロードバンドサービスなどの展開に加え、固定通信と移動通信の融合、あるいは通信と放送の連携が進展しつつあり、事業環境が急速に変化していく中で、サービス競争が新たな局面を迎えております。

当社の状況

移動通信事業においては、「シンプルコース」を拡充し、新シンプルプランならびに端末の分割払いを導入するとともに、多種・多様な端末の販売、新たなコンテンツの提供等、サービス内容の拡充に努めました。

固定通信事業においては、FTTHサービスの拡販等によるアクセス回線の拡大に注力するとともに、法人のお客様向けソリューションサービスの拡充に努めました。

その他、新たな事業分野として、モバイルネット金融サービスを提供するため設立した「株式会社じぶん銀行（以下「じぶん銀行」）」がサービスを提供開始いたしました。

また、株券の電子化に伴う端株制度の廃止につきましては、本年10月1日をもって完了いたしました。

業績等の概要

第2四半期連結会計期間

(単位：百万円)

		平成21年3月期 自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日			
営	業	収	益	876,813	
営	業	費	用	738,305	
営業利益				138,508	
営業外損益(△損失)				△1,104	
経常利益				137,403	
特別損益(△損失)				△524	
税金等調整前四半期純利益				136,878	
法	人	税	等	57,538	
少	数	株	主	利益	677
四半期純利益				78,661	

当第2四半期連結会計期間につきましては、営業収益は876,813百万円、営業利益は138,508百万円、経常利益は137,403百万円、四半期純利益は78,661百万円となりました。

事業別の状況

第2四半期連結会計期間

(単位：百万円)

		平成21年3月期 自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日		
移動通信事業				
営	業	収	益	680,907
営	業	費	用	532,139
営業利益				148,767
固定通信事業				
営	業	収	益	215,871
営	業	費	用	226,197
営業利益(△損失)				△10,326
その他の事業				
営	業	収	益	17,019
営	業	費	用	17,306
営業利益(△損失)				△286

契約数

(単位：千契約)

		平成21年3月期 平成20年9月30日現在
a	u 携 帯 電 話 ※1	30,452
(内 C D M A 1 X W I N)		(21,096)
F	T T H	967
メ タ ル プ ラ ス		3,251
ケ ー ブ ル プ ラ ス 電 話		429
ケ ー ブ ル テ レ ビ ※2		697
(再 掲) 固 定 系 ア ク セ ス 回 線 ※3		5,178

※1 au携帯電話の契約数には、通信モジュールサービスの契約数も含まれております。

※2 ケーブルテレビ契約数は放送、インターネット、電話のうち、一つでも契約のある世帯数です。

※3 FTTH、直収電話(メタルプラス、ケーブルプラス電話)、ケーブルテレビのアクセス回線で重複を除きます。

(移動通信事業)

当第2四半期連結会計期間における営業収益は680,907百万円となり、営業利益は148,767百万円となりました。

<全般>

- ・ a u 携帯電話のご契約数が、本年9月末時点において30,452千契約となりました。

<携帯電話端末>

- ・ 本年7月4日以降、WIN初のグローバルパスポートCDMA対応モデル「W63SA」、外装や待受画面・メインメニューなどをまるごと変えることができる「フルチェンケータイ re」、3.0インチフルワイドVGA液晶を搭載し、ワイヤレスミュージックを楽しめる「W62SH」、やさしい“ヒカリ”の演出と、カロリーカウンターで心も体もリフレッシュできる、ビューティー・イルミ・ケータイ「W64SA」、「都会的で洗練された大人に似合うケータイ」をコンセプトに、落ち着いたある上質なデザインと、「ワンセグ※1」「EZ FeliCa※2」といったトレンド機能を備えながら、使いやすさにも配慮した「URBANO (アルバーノ)」、キーが光って操作を教えてくれる「光で操作ナビ」を搭載した簡単ケータイ「W62PT」、コスメティックのように華やかでエレガントなデザインが特長の「W64T」を順次発売いたしました。
 - ※1 「ワンセグ」は社団法人地上デジタル放送推進協会の商標です。
 - ※2 「FeliCa」はソニー株式会社が開発した非接触ICカードの技術方式であり、ソニー株式会社の登録商標です。

<コンテンツサービス>

- ・ サザンオールスターズがデビュー30周年を迎えたことを記念して、本年6月25日～8月31日まで、LISMOとコラボレーションした「LISMO Recommendサザンオールスターズ」キャンペーンを実施いたしました。a uのお客様限定で、サザンオールスターズの歴代楽曲、計100曲のEZ「着うたフル※」や冠協賛した30周年記念ライブチケットの先行販売を行ったほか、携帯電話全体がサザン仕様となった「フルチェンケータイ re」のスペシャルモデル「サザンケータイ」を台数限定で販売いたしました。
 - ※ 着うたフル※は、株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です。

(固定通信事業)

当第2四半期連結会計期間における営業収益は215,871百万円、営業損失は10,326百万円となりました。

<全般>

- ・ 「ひかりone」と連結子会社の中部テレコミュニケーション株式会社が提供する「コミュファ光」を合わせたFTTHサービスのご契約数が、本年9月末時点において967千契約となりました。
- ・ 「メタルプラス」のご契約数が、本年9月末時点において3,251千契約となりました。
- ・ 「ケーブルプラス電話」は、提携するCATV局を順次拡大し、本年9月末時点において、提携CATV局52社、ご契約数429千契約となりました。
- ・ 連結子会社であるJCNグループは首都圏を中心に傘下に15局を展開しており、ケーブルテレビのご契約数は本年9月末時点において697千契約となりました。
- ・ 「KDDIまとめて請求」にご加入のご自宅の「auおうち電話※」から a u 携帯電話および「auおうち電話※」への国内通話料を24時間無料とするとともに、「au→自宅割」の対象のご自宅が「auおうち電話※」であれば a u 携帯電話からご自宅への国内通話が24時間無料となる本格的なFMCサービス「auまとめトーク」を、本年8月1日より提供開始いたしました。
 - 「auまとめトーク」による通話無料と、本年3月から提供している a u 携帯電話の「家族割」+「誰でも割」による家族への通話無料を組み合わせることで、当社の電話サービスを一層便利にご利用いただけます。
 - ※ 「ひかりone電話サービス」「メタルプラス電話」「ADSL one電話サービス」「ケーブルプラス電話」「au one net」の050番号サービス (KDDI-IP電話) の総称です。
- ・ 固定系インターネット接続サービス「au one net」で提供するWEBメールサービスにおいて、他のお客様のメールが閲覧できてしまう可能性があることを確認したため、本年7月25日～8月13日まで当サービスを停止させていただきました。平成19年12月19日に実施した作業の設定ミスが根本原因と判明したため、設定を修正し、再発しないことを確認の上、本年8月14日より当サービスを再開いたしました。
 - お客様には多大なご迷惑・ご心配をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。当社は、数多くのおお客様情報を取り扱う通信事業者としての立場を改めて強く認識するとともに、再発防止に努めてまいります。

<法人向けサービス>

- ・ロシア最大の長距離通信事業者であるRostelecom（ロステレコム）と共同で、日本～ロシア間光海底ケーブル(Russia-Japan Cable Network：以下RJCN)を建設し、本年9月6日より運用開始いたしました。RJCNは、大容量（640Gbps）光海底ケーブルで、南北2ルート構成により一方に障害が起こっても瞬時に自動復旧する機能を有した信頼性の高いケーブルシステムです。

当社は、ロステレコムが所有するロシア横断光ファイバーネットワークとシームレスに接続し、日本～欧州間を最短ルートで結びます。これにより、伝送遅延が約30%～50%程度改善され※、高品質で信頼性の高いサービスを提供いたします。

※ KDDIのバックボーン・ネットワークにおける比較。

- ・日経コミュニケーションと総務省が共同で実施した「ブロードバンド/モバイル/NGN時代の企業ネットワーク実態調査」において、平成20年の広域イーサネット部門でKDDI Powered Ethernetサービスが7年連続で利用率首位を獲得いたしました。

(その他の事業)

当第2四半期連結会計期間における営業収益は17,019百万円、営業損失は286百万円となりました。

当社と株式会社三菱東京UFJ銀行が共同で設立いたしましたじぶん銀行は、本年7月17日より、お客様向けサービスを提供開始いたしました。

また、当社は、じぶん銀行を所属銀行とする銀行代理業の許可を取得し、本年7月17日より、じぶん銀行の「円普通預金口座」の契約締結の取次を開始いたしました。

当社とじぶん銀行は、携帯電話を使った新しい金融サービスの提供により、高い付加価値を創造し、一層の「お客様満足度向上」に努めてまいります。

(2) 財政状態及びキャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は3,220,041百万円となり、負債は1,373,424百万円となりました。純資産は1,846,617百万円となり、自己資本比率は、56.1%となりました。

当第2四半期連結会計期間における、営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益136,878百万円等により、202,550百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得等により、133,745百万円の支出となりました。この結果、フリー・キャッシュ・フローは、68,805百万円のプラスとなりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れ等により、56,391百万円の収入となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は、200,545百万円となりました。

(注) フリー・キャッシュ・フローは「営業活動によるキャッシュ・フロー」と「投資活動によるキャッシュ・フロー」の合計であります。

(3) 対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結会計期間における研究開発費の総額は、7,160百万円であります。

なお、当第2四半期連結会計期間において、当社グループの研究開発活動に重要な変更はありません。